

## 「私の第一声⑬」

【自分の職業をどのように選ぶのか】

私は教育大学の小学校教員養成課程に通っていたので、同級生の多くは小学校の先生をめざしていました。しかし私は、そもそも教員という職業にあまり興味はなく、特に、小学校の先生には、なりたくないと思っていました（理由は後で）。皆さんは、幼い頃、どのように将来の職業を思い描いていましたか？ 私の場合を思い出してみました。

保育所時代「警察官」。この頃、仮面ライダーやゴレンジャーごっこに夢中になっていて、正義の味方に憧れていたのでしょう。

幼稚園時代「ボール屋さん」。幼稚園の卒園記念文集の「将来の夢」欄に書いてあります。同級生とうまく人間関係が作れず悩んでいたの、友だちと遊べるボールが好きだったのかもしれませんが。

小1「ケーキ屋さん」。当時、甘いものは体に悪い、虫歯になる、という理由で、うちの家ではなかなか食べさせてもらえなかったから？

小4「物理学者」。この頃、理科が好きになります。授業でグラウンドに出て、土の山に水を流して土砂がどうなるのか実験し記録したり、リトマス紙で手当たり次第に周りの物のPHをはかったりするのがとても楽しかったのを覚えています。父が技官だったことも影響しているかもしれませんが。クラスで自分の夢を発表する機会があり、担任の先生は私の物理学者という夢をきいて、みんなの前で「夢は大きい方がいいね」とコメントしました。当時、私は勉強が苦手でしたから、自分でも「無理やるな」と思っていましたが、担任の言葉が「あなたには無理やで」と聞こえ、とても悲しかった記憶があります。何気ない教員の一言が子どもに深い傷を与えることがあると痛感しています。

小5「将棋の名人」。この頃、地元の集会所のそろばん塾に通っており、待ち時間で友人と将棋をしていました。当時ちょっとした将棋ブーム。丸メガネの大山康晴十五世名人の全盛期で、後の永世名人中原誠と戦っていました。私は居飛車で矢倉専門。勝てる相手は同級生1人のみなのに、名人とは。藤井聡太と違い、まさに大きい夢です。

小6「小説家」。友達関係がうまくいかず、現実逃避にむさぼるように本を読むうちに、自分で本の中の世界を創ることに憧れます。しか

し、この頃から、自分の思いを表明したら「バカにされるかも」と感じるようになりました。とても残念なことです。どの子も自分の夢を生き活きと語れる、そんな学校を私は必ず作りたと思っています。

中学時代「SF作家」。好きな作家の影響で、特にSF（サイエンス・フィクション）が好きになった影響です。

高校生になり、「作家」という職業のハードルの高さがわかってきます。漠然と大学にいったらその流れで就職するのかな、と考えるようになり、「夢」としての職業観は消えていきました。「なりたいもの」より「なれるもの」。ある面、当然かもしれませんが、今から考えれば、ここでもう少し自分を見つめることが必要だったかもしれません。現在は、小中高各校種で「キャリア教育」が位置づき、自分と自分の職業について考える機会が豊富にあるので、うまく活用したいですね。

2浪の末、大学生になるために教育大学の国語科に進みました。

大学3回生になり、周りの学生が就職活動を始めます。何とも遅いのですが、私はやっと自分の職業について真剣に考えます。自分の特徴と経験を活かす選択は何だろう？ まず、両親の影響で、安定した職業につくことを重視。加えて、塾の講師や家庭教師をしていた時の充実感、教育実習で知った専門職としての魅力、読書で身につけた浅いけれど広い分野の知識、そして教育大学で4年間学んだ経験。これらの財産を活かすことのできる教員を第一志望に決めました。

では、小・中・高どの校種にするか？ 私の母は、堺にきて産休講師としてあちこちの小学校の家庭科専科を長く勤めていました。毎日夜遅くまで小テストの丸付けや書類仕事、朝、私が起きたら、もう児童の作品のチェックをしています。常に忙しそう、しんどそうでした。臨時雇いだっただけで給料も少ない。今から考えれば全く見当違いの小学校の教員イメージを持っていました。その年の教員採用試験の競争倍率は小学校よりも中学校国語はかなり高かったのですが、結局、大阪府の教員採用試験は中学校を受けたのでした。

【不定期コラムNo.26】へつづく

### 第三中学校ホームページ

では、子どもたちの様子やお知らせなど情報発信しています。ぜひご覧ください。これまでの不定期コラムも「校長室より」のコーナーでご覧いただけます。

<http://www.kaizuka.ed.jp/dai3-jh/>

貝塚第三中学校HP



貝塚第三中学校HP